

第九表 第二度脊椎後彎に他の缺陷を伴へるもの

統計表

姿勢	12歳以下		13歳—19歳		20歳—25歳		
	人数	%	人数	%	人数	%	
第二級	14	78	102	82	262	73	
第三級	4	22	22	18	98	27	
頸	0	3	16	22	18	43	12
	1°	7	39	54	44	136	38
	2°	8	45	46	37	158	44
	3°	—	—	2	1	23	6
肩	0	1	5	81	65	178	49
	1°	13	73	40	32	153	43
	2°	4	22	3	3	29	8
	3°	—	—	—	—	—	—
腰椎前彎	0	5	28	36	29	116	32
	1°	10	56	54	44	122	34
	2°	3	16	26	21	96	27
	3°	—	—	8	6	26	7
脊椎側彎	0	13	73	69	56	207	58
	½"以下	4	22	33	26	102	28
	½"及び其以上	1	5	19	15	44	12
	二重彎曲	—	—	3	3	7	2

13歳—19歳のものに於ては、第二度脊椎後彎が所在してゐても、肩の正常なものが多いことを注目せられたい。

12歳以下に於ては、第二度脊椎後彎が所在してゐると、前出肩が多いことを注目せられたい。

第八表 第三級姿勢に他の缺陷を伴へるもの

姿勢	12歳以下		13歳—19歳		20歳—25歳		
	人数	%	人数	%	人数	%	
頸	0	5	42	8	13	121	27
	1°	2	16	25	40	179	39
	2°	5	42	28	45	138	30
	3°	—	—	1	2	19	4
肩	0	6	50	29	47	285	62
	1°	5	42	31	50	171	37
	2°	1	8	2	2	—	—
	3°	—	—	—	—	1	0.02
脊椎後彎	0	5	42	19	31	226	49
	1°	3	25	19	31	106	24
	2°	4	33	21	34	101	22
	3°	—	—	3	4	24	5
腰椎前彎	0	3	25	9	14	95	21
	1°	5	42	14	23	115	25
	2°	2	16	23	37	168	37
	3°	2	16	16	26	79	17
脊椎側彎	0	9	75	37	60	251	55
	½"以下	2	16	17	27	115	25
	½"及び其以下	1	8	7	11	78	17
	二重彎曲	—	—	1	2	13	3

第2表及び第7表と比較。當該人数が少ないので、本表に示した率は、あまり統計的價値を有たない。

靜的觀察を主とする姿勢缺陷の觀測と處置

第十一表 第二度腰椎前彎に他の缺陷を伴へるもの

	12歳以下		13歳—19歳		20歳—25歳		
	人数	%	人数	%	人数	%	
姿勢 第二級	83	97	372	94	582	78	
第三級	3	3	22	6	166	22	
頸	0	56	65	187	47	264	35
	1°	26	31	145	37	332	44
	2°	3	3	55	14	140	19
	3°	1	1	7	2	12	2
肩	0	63	73	343	87	592	79
	1°	22	26	49	12	132	18
	2°	1	1	2	0.05	24	3
	3°	—	—	—	—	—	—
脊椎後彎	0	66	77	275	69	468	63
	1°	18	21	90	23	178	24
	2°	2	2	28	7	96	13
	3°	—	—	1	0.025	6	0.08
脊椎側彎	0	53	62	236	59	409	54
	½"以下	20	23	113	29	223	30
	½"及び其以上	12	14	39	10	102	14
	二重彎曲	1	1	6	2	14	2

第二度腰椎前彎を起せる13歳—19歳のものに於ては、肩の正常なるものが多く、第二度腰椎前彎に脊椎後彎を伴へるものは、年齢と共に増加せることに注目せられたい。12歳以下に於ては第二度腰椎前彎に脊椎後彎を伴へるものが少い。

第十表 第三度脊椎後彎に他の缺陷を伴へるもの

	12歳以下		13歳—19歳		20歳—25歳		
	人数	%	人数	%	人数	%	
姿勢 第二級	—	—	2	40	16	39	
第三級	—	—	3	60	25	61	
頸	0	—	—	—	5	12	
	1°	—	—	2	40	7	17
	2°	—	—	3	60	24	59
	3°	—	—	—	—	5	12
肩	0	—	—	1	20	21	51
	1°	—	—	4	80	17	42
	2°	—	—	—	—	3	7
	3°	—	—	—	—	—	—
腰椎前彎	0	—	—	—	9	22	
	1°	—	—	4	80	17	42
	2°	—	—	1	20	7	17
	3°	—	—	—	—	8	19
脊椎側彎	0	—	—	3	60	28	56
	½"以下	—	—	2	40	11	27
	½"及び其以上	—	—	—	—	6	15
	二重彎曲	—	—	—	—	1	2

12歳以下には第三度脊椎後彎の皆無なことに注目せられたい。

第十三表 矯正

	12歳以下		13歳—19歳		20歳—25歳	
	人数	%	人数	%	人数	%
頸						
完全に矯正せられたるもの	73	71	206	37	541	41
改善せるもの	7	7	129	23	344	27
変化なきもの	22	21	204	37	404	30
却つて増大せるもの	1	1	18	3	28	2
肩						
完全に矯正せられたるもの	71	84	146	77	518	84
改善せるもの	2	2	4	1	25	4
変化なきもの	12	14	37	21	74	12
却つて増大せるもの	—	—	2	1	—	—
脊椎後彎						
完全に矯正せられたるもの	55	77	160	43	402	44
改善せるもの	6	8	72	19	208	23
変化なきもの	10	14	124	33	275	31
却つて増大せるもの	1	1	18	5	14	2
腰椎前彎						
完全に矯正せられたるもの	53	30	185	25	510	36
改善せるもの	55	30	268	37	495	35
変化なきもの	66	36	261	36	396	28
却つて増大せるもの	8	4	15	2	25	1
脊椎側彎 (1/2"以下)						
完全に矯正せられたるもの	23	50	131	51	254	49
改善せるもの	8	17	49	19	139	27
変化なきもの	10	22	69	27	117	22
却つて増大せるもの	5	11	10	3	12	2
脊椎側彎 (1/2"以上)						
完全に矯正せられたるもの	4	18	30	21	82	21
改善せるもの	16	73	89	64	253	66
変化なきもの	2	9	20	14	34	12
却つて増大せるもの	—	—	1	1	2	1

12歳以下の場合に於ては、前出頸の矯正は易い。
 他の表に徴してみると、13歳—19歳のものに於ては、前出肩が少いことが知られるが、その實在せる場合には他の群に比し、その矯正は容易でない。
 12歳以下の脊椎後彎は容易に矯正せられるが、腰椎前彎は矯正することの最も難かしきものである。又12歳以下の脊椎側彎も矯正することが難かしい。

第十二表 第三度腰椎前彎に他の缺陷を伴へるもの

姿勢	12歳以下		13歳—19歳		20歳—25歳	
	人数	%	人数	%	人数	%
第二級	12	86	81	84	106	57
第三級	2	14	16	16	79	43
頸						
0	11	79	59	61	71	38
1°	3	21	22	23	68	37
2°	—	—	16	16	41	22
3°	—	—	—	—	5	3
肩						
0	11	79	88	91	139	75
1°	3	21	9	9	42	23
2°	—	—	—	—	4	2
3°	—	—	—	—	—	—
脊椎後彎						
0	13	93	73	75	120	65
1°	1	7	15	16	32	18
2°	—	—	8	8	25	13
3°	—	—	1	1	8	4
脊椎側彎						
0	8	58	58	69	113	61
1/2"以下	3	21	26	27	45	25
1/2"及び其以上	3	21	11	11	21	11
二重彎曲	—	—	2	2	6	3

13歳—19歳のものに於ては、肩の正常なるものが多く、12歳以下には脊椎後彎が少いことに注目せられたい。

第十四表 個人別分類表 (其の二)

一 頸 脊 腰 般 椎 椎 姿 後 前 勢 彎 彎	十二 歳 以 下 二五〇人	十三 歳—十九 歳 一、五〇三人	二十 歳—二十五 歳 三、五〇三人	一 頸 脊 腰 般 椎 椎 姿 後 前 勢 彎 彎	十二 歳 以 下 二五〇人	十三 歳—十九 歳 一、五〇三人	二十 歳—二十五 歳 三、五〇三人
3 0 0 0	0	0	17	1 0 3	0	1	19
3 1 0 0	0	1	23	0 1 3	0	0	1
0 1 0 0	0	0	4	3 0 1	0	0	2
0 0 1 0	0	0	18	1 3 0	0	0	1
3 1 1 0	1	1	8	3 3 1 1	0	1	2
1 0 1 0	0	0	19	1 1 1 1	0	1	1
0 1 1 1	1	0	4	1 1 1 3	0	3	4
3 1 1 1	0	2	14	3 3 2 0	0	0	2
3 2 0 0	0	1	9	3 3 0 2	0	0	2
0 2 0 0	0	0	2	0 3 2 2	0	0	0
0 0 2 0	1	2	38	2 0 3 3	0	1	6
3 2 1 0	0	2	8	0 2 3 3	0	0	3
2 0 1 0	1	2	10	2 3 0 0	0	0	1
0 1 2 0	0	0	10	3 3 2 1	0	0	1
0 2 1 0	0	0	4	1 3 2 1	0	1	2
1 2 0 0	0	1	6	2 3 1 1	0	1	1
3 2 1 1	1	2	34	1 2 3 3	0	4	8
1 2 1 1	0	2	4	2 1 3 3	0	2	6
3 2 1 2	0	3	19	3 3 2 2	0	0	1
3 2 2 0	0	3	14	2 3 2 2	0	0	2
0 2 2 2	1	1	5	3 3 3 0	0	0	6
3 2 0 2	0	0	14	3 3 0 3	0	0	1
3 2 2 1	3	4	14	3 0 3 3	0	0	0
2 1 2 2	0	4	10	0 3 3 3	0	0	1
1 2 2 2	0	2	12	3 3 3 1	0	0	3
3 2 2 2	0	5	16	3 1 3 3	0	0	2
3 3 0 0	0	0	0	1 3 3 3	0	0	2
0 3 0 0	0	0	0	3 3 3 2	0	0	0
0 0 3 0	2	5	17	3 2 3 3	0	0	5
3 3 1 0	0	0	1	3 2 3 3	0	0	0
0 3 1 1	0	0	1	3 2 3 3	0	0	0

上表に於ては、前後面の等級によつて類別してある。一般姿勢、頸、脊椎後彎及び腰椎前彎は、第一度（軽きもの）、第二度（中位のもの）及び第三度（甚しきもの）を基準として分類してある。

統計表

一九一

第十四表 個人別分類表 (其の一)

一 頸 脊 腰 般 椎 椎 姿 後 前 勢 彎 彎	十二 歳 以 下 二五〇人	十三 歳—十九 歳 一、五〇三人	二十 歳—二十五 歳 三、五〇三人	一 頸 脊 脊 般 椎 椎 姿 後 前 勢 彎 彎	十二 歳 以 下 二五〇人	十三 歳—十九 歳 一、五〇三人	二十 歳—二十五 歳 三、五〇三人
1 0 0 0	4	50	81	1 0 3	2	14	23
2 0 0 0	13	69	262	0 1 3	0	8	2
2 1 0 0	12	64	331	3 0 1	0	1	5
0 1 0 0	3	25	72	1 3 0	0	0	1
0 0 1 0	39	225	288	2 3 1 1	0	7	0
2 1 1 0	4	89	248	1 3 1	0	0	1
1 0 1 0	24	156	348	1 1 3	1	1	9
0 1 1 1	11	43	67	2 3 2 0	0	0	7
2 1 1 1	15	78	178	3 0 2	1	2	2
2 2 0 0	0	13	64	0 3 2	0	0	1
0 2 0 0	3	6	8	2 0 3	0	7	8
0 0 2 0	48	151	158	2 3 0	0	1	4
2 2 1 0	0	27	83	0 2 3	0	1	0
2 0 1 0	1	36	62	2 3 1	0	0	8
0 1 2 0	5	28	40	3 1 2	0	4	2
0 2 1 0	1	5	10	1 3 2	0	0	1
1 2 0 0	2	13	33	2 3 1	0	1	4
1 0 2 0	14	92	168	1 2 3	0	1	5
2 2 1 1	4	26	63	2 1 3	0	1	4
1 2 1 1	3	26	44	2 3 2 2	0	1	3
1 1 2 0	11	36	73	2 3 2	0	0	2
2 2 2 0	1	8	41	2 2 3	0	4	3
0 2 2 2	0	4	12	2 3 0	0	0	0
2 0 2 2	2	24	44	3 0 3	0	0	2
2 2 2 1	3	17	37	0 3 3	0	0	0
2 2 1 2	1	14	26	3 3 1	0	0	1
1 2 2 2	1	8	24	3 1 3	0	0	1
2 2 2 2	0	8	26	1 3 3	0	0	0
2 3 0 0	0	1	5	2 3 3 2	0	0	0
0 3 0 0	0	0	0	3 3 3	0	0	1
0 0 3 0	9	44	47	2 3 3	0	0	9
2 3 1 0	0	1	2	2 3 3 3	0	0	0
0 3 1 1	0	0	1				

静的觀察を主とする姿勢缺陷の観測と處置

一九〇

要約

幼 兒 (十二歳以下)

- (一) 腰椎前彎が多い。
- (二) 甚しく柔軟性を有つてゐるため、矯正が難しい。又柔軟性を有してゐるので、代償性缺陷を起す惧れがあり、従つて幼兒の腰椎前彎を局處的に矯正しようと試むべきではない。
- (三) 脊椎後彎、前出肩、前出頸は、柔軟性を有してゐるため、矯正し易い。然しかゝる缺陷は、前出肩を除き幼兒には稀れである。
- (四) 従つて、幼兒にあつては、矯正運動も必要でないことが多い。姿勢矯正の點から云へば、一般の運動と遊戯とを以てすれば、充分その目的が達せられると思ふ。
- (五) 右に述べたところは、構造的缺陷には適用せられない。

青春期にあるもの (十三歳—十九歳)

- (一) 青春期のものに共通する最も顯著なる點は、前出肩のなきことである。幼兒の前出肩は腹が隆起し胸と肩とが引張られるために起る。青春期のものにあつては、凭うした腹の缺陷が消失してゐるし、成人期

に於て、前出肩を起す弛緩姿勢も未だ現はれてゐない。

- (二) 特異な成人の姿勢缺陷は、青春期を通じて徐々に起つて來る。矯正運動は、この時期に始むべきである。

成 人 (二十歳—二十五歳)

- (一) 凡ての姿勢缺陷が最も多く見られる時期である。但し腰椎前彎と、これに伴ふ腹の隆起及び前出肩を除く(これは幼兒に最も多い)。

右本書に於て述べたる決論、これに對する手段及び諸統計は、少年と青年に就いて検査せる資料によつて作成したるもので、即ち男子に就いて研究したるところを基礎としたものである。従つて少女及び若き婦女子に就いての統計は、これとかなり異なる割合が見出されることは疑ひもないところである。

静的觀察を主とする姿勢缺陷の観測と處置 (終)

昭和十四年三月十五日印刷
昭和十四年三月二十日發行

靜觀的察と主とせ

姿勢の缺陷と観測之處

著者
印者

著者 西勝造

發行者 梶原好雄
東京市京橋區銀座西三丁目一番地

印刷者 小林鉦造
東京市麻布區市兵衛町二ノ六九

東京市京橋區銀座西三丁目一番地

發行所 中庸出版社

定價 貳圓八拾錢

振替東京七三二九九番
電話京橋五二四〇番

Printed in Japan

60
1552

終